【情報公開文書】

作成日2026年　6月 1日

（最終更新日２０２６ 年7 月1日）

受付番号： I2026-043

課題名：がん悪液質の病態解明および治療標的の探索：頭頸部がん患者由来がん悪液質モデルの樹立と臨床検体を用いたオミクス解析

本学では、上記の研究を実施しています。この研究では、がん悪液質がどのような仕組みで起こり、進行するかを明らかにするため、頭頸部がん患者さんから新たに得られる試料・情報に加えて、すでに樹立・保管されている既存の患者由来がん細胞株を使用します。このお知らせは、本研究のうち、既存の患者由来がん細胞株を用いる部分について、研究の目的や方法、利用する試料・情報、利用停止を希望される場合の連絡先などを公開するものです。

１．研究の対象

本研究では、公的バイオバンクである JCRB 細胞バンクに寄託・カタログ登録されている既存患者由来がん細胞株（AkuNEC、TCC-NECT-2、HSC-60、MKN45cL85、85As2mLuc）および HSC-60 由来の派生株である Aku60 を使用します。

これらの細胞株は、過去に患者さんの腫瘍から樹立され、研究利用のために提供・登録されている既存の研究用細胞株です。本研究では、これらの細胞株を用いて解析を行いますが、東京科学大学の研究者は、細胞株の由来となった患者さんの氏名、診療録番号、生年月日など、患者さんを直接特定できる情報を取得しません。

２．研究期間

2026 年7月1日（研究実施許可日）～2030 年 3 月 31 日

３．試料・情報の利用及び提供を開始する予定日

本研究で試料・情報の利用を開始する予定日及び外部への提供を開始する予定日は以下の通りです。

利用開始予定日：　2026 年7月1日（研究実施許可日）

提供開始予定日：　2026 年7月1日（研究実施許可日以降順次）

４．研究目的

今回の研究では、がん悪液質がどのような仕組みで起こり、進んでいくのかを明らかにし、将来的な診断法や治療法の開発につながる知見を得ることを目的としています。

がん悪液質は、がんに伴って体重減少や骨格筋の減少、全身の代謝異常などが進行する病態であり、治療の継続や生活の質、予後に大きく関わります。本研究では、患者さん由来の既存がん細胞株を用いて、がん悪液質を誘導する性質の違いや、腫瘍細胞の分子発現、薬剤応答性などを調べます。また、必要に応じて細胞株をマウスに移植したモデルを作製し、血液、腫瘍組織、骨格筋、脂肪組織などの変化を解析します。さらに、新たに樹立する頭頸部がん由来モデルや、研究利用に係る手続が確認できる既存の悪液質モデルと比較することで、がん種を越えて共通する仕組みと、がん種ごとに異なる仕組みの両方を明らかにすることを目指します。

５．研究方法

この研究では、既存患者由来がん細胞株を用いて、がん悪液質に関わる腫瘍細胞側の性質や、モデルマウスにおける全身性の変化を調べます。研究の流れは、以下のとおりです。

① 本研究で使用する既存細胞株

本研究では、必要な提供手続および MTA（試料提供に関する契約）に基づいて提供を受ける既存患者由来がん細胞株を使用します。現時点で使用する細胞株は、JCRB 細胞バンクに寄託・カタログ登録されている AkuNEC、TCC-NECT-2、HSC-60、MKN45cL85、85As2mLuc、および HSC-60 由来の派生株である Aku60 です。これらは、提供条件および本研究計画の範囲内で使用します。今後、新たな細胞株を追加する場合には、提供元における取得経緯および研究利用に係る倫理的手続を確認し、必要に応じて研究計画書の変更申請を行ったうえで使用します。

② 研究で行う解析の内容

細胞株について、増殖能、悪液質を誘導する性質、腫瘍細胞の生物学的特性、遺伝子やタンパク質の発現、薬剤に対する反応性などを調べます。また、必要に応じて、細胞株を免疫不全マウスに移植してモデルを作製し、体重変化、摂食量、腫瘍の増大、骨格筋量、脂肪量などを評価します。さらに、血液、腫瘍組織、骨格筋、脂肪組織、その他の関連臓器を用いて、トランスクリプトーム解析、プロテオーム解析、その他必要なオミクス解析を行い、がん悪液質の発症や進行に伴って変化する分子や経路を調べます。

③ 研究対象者の方への新たな負担について

本研究で使用する既存患者由来がん細胞株は、すでに樹立・保管されている研究用細胞株です。そのため、この情報公開文書に基づいて新たに採血、生検、手術、画像検査などをお願いすることはありません。また、東京科学大学の研究者は、細胞株の由来となった患者さんを直接特定できる情報を取得しません。

６．研究に用いる試料・情報の種類

試料：既存患者由来がん細胞株（AkuNEC、TCC-NECT-2、HSC-60、MKN45cL85、85As2mLuc、Aku60）、当該細胞株から作製したゼノグラフト由来試料、抽出 RNA、抽出タンパク質・ペプチド等

情報：細胞株名、由来がん種、JCRB 登録情報、細胞株およびモデルから得られる遺伝子発現データ、タンパク質発現データ、薬剤応答性データ、その他の解析データ等。氏名、生年月日、診療録番号など、細胞株の由来となった患者さんを直接特定できる情報は取得しません。

７．外部への試料・情報の提供

本研究で用いる既存患者由来がん細胞株、当該細胞株から得られる試料、解析データの一部は、共同研究機関である熊本大学等に提供される場合があります。その場合には、氏名、生年月日、診療録番号など、細胞株の由来となった患者さんを直接特定できる情報は提供せず、細胞株名または研究用の番号を付けた状態で取り扱います。提供された試料・情報は、本研究の目的の範囲内で使用されます。

また、本研究で得られた質量分析データおよび解析データの一部は、論文発表等に際して、質量分析プロテオームデータの公的データベースである jPOSTrepo（Japan ProteOme STandard Repository）、ProteomeXchange 等に登録する場合があります。登録にあたっては、氏名、生年月日、診療録番号など、細胞株の由来となった患者さんを直接特定できる情報は含めず、研究対象者を特定できない状態で登録します。

８．研究組織

研究代表者：東京科学大学 分子発生・口腔組織学分野　大﨑珠理亜

共同研究機関：

・がん・感染症センター都立駒込病院　耳鼻咽喉科・頭頸部外科　杉本太郎

・熊本大学大学院生命科学研究部 微生物薬学分野　大槻純男

９．利益相反（企業等との利害関係）について

利益相反とは、研究者が企業などから資金提供を受けることによって、研究結果が特定の企業にとって都合よく影響を受けているのではないか、また研究結果の公表が公正に行われないのではないか、などの疑問が第三者から見て生じうる状態のことをいいます。本研究は、公的研究費（科学研究費助成事業等）および各研究機関の運営費を用いて実施します。現時点では、本研究の成果に直接関係する企業等からの資金提供はなく、研究の実施にあたって特定の企業との利害関係はありません。本研究の実施にあたっては、各研究機関において研究者の利益相反状況に関する申告を行い、各機関の規程に基づいて適切に管理されています。この研究の結果により特許権等が生じた場合は、その帰属先は研究機関及び研究者等になります。

１０．お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。

また、既存患者由来がん細胞株が本研究に用いられることについて、細胞株の由来となった患者さんまたは代理人の方から利用停止の申し出があった場合には、提供元および関係機関と協議し、可能な範囲で適切に対応します。ただし、東京科学大学の研究者は細胞株の由来となった患者さんを直接特定できる情報を取得しないため、申し出の内容によっては確認や対応が困難な場合があります。また、すでに解析が終了しているデータ、個人を特定できない状態で加工されたデータ、共同研究機関に提供済みの試料・情報、またはすでに公表された研究成果については、利用停止または廃棄が困難な場合があります。

本研究に関する照会先および利用停止を希望する場合の連絡先：

担当者の所属・氏名：

東京科学大学 分子発生・口腔組織学分野　大﨑珠理亜

連絡先：03-5803-5579

１１．苦情窓口

東京科学大学　研究推進部研究基盤推進課　生命倫理グループ

03-5803-4547（対応可能時間帯：平日9:00～17:00）